

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和4年第46週 令和4年11月14日(月) ～ 令和4年11月20日(日)

今週： 令和4年第47週 令和4年11月21日(月) ～ 令和4年11月27日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染 の 状 況	陽性者数	①総数	8,030人	9,566人	↗	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	6,781人	8,007人	↗		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	1,249人	1,559人	↗		
	②対人口10万人（総数）	521.4人	621.2人	↗	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	1.19	1.19	→	18.0	令和4年第1週	
④陽性率 ^{※3}	50.5%	56.7%	↗	64.3%	令和4年第30週		
医療 提 供 体 制	⑤入院患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	165人	205人	↗	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	34.0%	42.3%	↗	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥重症患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	1人	4人	↗	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	1.4%	5.8%	↗	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週	直近1週間	累計
	R4.11/14 ~ R4.11/20	R4.11/21 ~ R4.11/27	R3.3/11 ~ R4.11/27
α 株（アルファ）	0件	0件	203件
β 株（ベータ）	0件	0件	0件
γ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
δ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	3件	0件	486件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	1件	0件	8件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	31件	10件	544件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

第 47 週（令和 4 年 11 月 21 日～11 月 27 日）

第 47 週（今週）も陽性者数は増加していますが、前週との増加比は第 46 週（前週）と変化はなく、2 週連続して減少しその後停滞（1.73→1.25→1.19→1.19）しています。今週は入院者数も増加し、重症者数も前週の 1 人から 4 人へ増加しています。

<感染の状況：直近 1 週間>

① 医療機関から報告された陽性者数は、第 39 週 3,198 名から、第 42 週 2,203 人まで 4 週連続して減少しましたが、第 43 週 2,676 人から、4,606 人→5,726 人→6,781 人、そして第 47 週（今週）8,007 人と 5 週連続して増加となっています。

セルフテスト陽性者数は第 39 週 495 人から、399 人→459 人→378 人と推移しましたが、第 43 週 450 人から、814 人→1,047 人→1,249 人、そして第 47 週（今週）1,559 人と 5 週連続して増加となっています。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第 39 週 3,693 人から、第 42 週 2,581 人まで 4 週連続して減少しましたが、第 43 週 3,126 人から、5,420 人→6,773 人→8,030 人、そして第 47 週（今週）9,566 人と 5 週連続して増加しています。

② 対人口 10 万人あたりの陽性者数は、第 39 週 239.8 人から、第 42 週 167.6 人まで 4 週連続して減少しましたが、第 43 週 203.0 人から、351.9 人→439.8 人→521.4 人、そして第 47 週（今週）621.1 と 5 週連続して増加しています。

③ 前週との増加比は、第 39 週 0.81 から、0.78→0.97→0.92 と推移し、第 42 週まで 4 週連続して 1.0 以下となっていました。第 43 週は 1.21、第 44 週は 1.73 となりましたが、第 45 週 1.25、第 46 週（前週）1.19 と 2 週続けて減少し、第 47 週（今週）は 1.19 と前週と同様に停滞していますが、5 週連続して 1.0 を越えています。

④ 検査陽性率は、第 39 週 40.2%から、36.2%→36.6%→34.8%→37.7%→51.3%→49.7%→50.5%、と推移し、第 47 週（今週）は 56.7%となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 11 月 27 日現在>

⑤ 入院中の患者数は、令和 4 年第 1 週 23 人から毎週増加、第 7 週 335 人をピークとして第 24 週 24 人まで減少しました（第 6 波）。第 25 週 41 人から毎週増加し、第 31 週 368 人をピークとしてその後第 43 週 61 人まで、12 週連続して減少しました（第 7 波）。第 44 週 122 人から、第 45 週 146 人、第 46 週（前週）165 人、第 47 週（今週）205 人と 4 週連続して増加しています。

入院病床使用率は、令和 4 年第 1 週 4.8%から急増し、第 7 週 70.2%をピークとして第 24 週 4.9%まで減少しました（第 6 波）。第 25 週から毎週増加し、第 31 週 75.9%をピークとしてその後第 43 週 12.6%まで 12 週連続して減少しました（第 7 波）。しかし、第 44 週 25.2%、第 45 週 30.1%、第 46 週（前週）34.0%、第 47 週（今週）42.3%と 4 週連続して増加しています。

確保病床数は現在合計 485 床です。

⑥ 重症入院患者数は、令和 4 年に入った第 1 週は 0 人でしたが、第 2 週 1 人から第 8 週 30 人まで増加しピークとなり、その後減少が続き、第 21 週から第 25 週は重症入院患者 0 人が 5 週連続しました（第 6 波）。しかし、第 26 週から再び増加が続き、第 32 週 14 人となりました。第 33 週からは毎週減少し、第 40 週から第 43 週の 4 週間は 1 人となっていました（第 7 波）。第 44 週・第 45 週の 3 人から、第 46 週（前週）は 1 人と減少しましたが、第 47 週（今週）は 4 人と増加しています。

重症病床使用率は、本年第 3 週 4.3%から増加が続き、第 8 週の 43.5%が第 6 波のピークとなり第 9 週 2.9%まで減少が続き、第 21 週から第 25 週は重症入院患者数 0 人のため重症病床使用率も 5 週連続して 0.0%となっていました。しかし第 26 週 2.9%から増加が続き、第 32 週の 20.3%を第 7 波のピーク

として減少し、第40週から第43週は1.4%となっていました。第44週・第45週は4.3%と増加し、第46週（前週）は1.4%と減少しましたが、第47週（今週）は5.8%と再び増加しています。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第47週（今週）は、オミクロン株10件中、BA.5が10件でした。

本市における陽性者数は第43週から増加に転じ、第44週は入院中の患者数、入院中の重症患者数も増加に転じました。第45週・第46週（前週）は、陽性者数は増加しているものの前週との増加比は2週続けて減少しました。第47週（今週）の前週との増加比1.19と第46週（前週）と変化なく、増加の程度はやや鈍くなっていますが5週連続して1.0を越えています。入院者数は4週続けて増加し今週は205人、重症入院患者数は第46週（前週）1人と減少しましたが、第47週（今週）は4人と増加しています。現在の状況の程度であれば、日常生活の制限は少なく、また新型コロナのみならず通常の医療を含めた医療全体も比較的落ち着いて行われているので、何とか現状程度を超えないようにしたいところです。

重症患者ができるだけ発生しないように、発生しても医療で受け止められる（入院ができる、経過観察ができる）体制を取れるようにしておくことは、極めて重要なこととなります。

今の生活の状況を維持し、さらに良い方向に向けていくためには、お一人お一人に基本的な感染症の予防に気を付けていただくことが大変重要になりますので、よろしく願いいたします。そのことによって、通常の医療、救急医療、お産などが、これまでどおりに維持できるようになります

どちらかへお出かけになる機会や集まりの機会も増えてきていると思いますが、やはり感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、あまり大人数にならぬようゆっくりと過ごされますようお願いいたします。一方、戸外や風通しの良い所、人と人の間隔が十分あいているような所では、マスクを外し、良い空気を吸う、体を動かすといったことも健康のために大切です。

毎冬話題となる季節性インフルエンザは、本市ではこれまでのところ流行の兆しとまでは至っていない状況ですが、毎年インフルエンザは12月に入ってから増加傾向が明らかとなってきます。インフルエンザも、新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感じる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要ですので、かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。

検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

新型コロナワクチンについて、本市においてもオミクロン株対応ワクチンの接種が始まっています。接種対象となっている方におかれましては早めに受けていただき、免疫を強固なものにしておくことを強くお勧めします。少なくとも3回の接種が、重症化を予防し、感染する割合を低下させることが内外から報告されています。また、様々な事情でワクチン接種を受けていない方におかれましては、感染予防に関する注意は少し強めにしてくださいませよう、よろしく願いいたします。

インフルエンザワクチンも開始されています。高齢者の方等を対象とした定期予防接種については川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000017625.html>) をご覧いただくか、川崎市予防接種コールセンター（044-200-0144）にお問い合わせください。任意接種としてインフルエンザワクチンの接種を希望される方はかかりつけの先生や医療機関などにお尋ねください。

お子さんを中心とした定期接種のワクチン、高齢者の方の肺炎球菌ワクチンなどの普段の予防接種もお忘れなく受けておくことを強くお勧めします。